

Viator

VOL.25

祝御降誕



孤独な誰かを無視することなく

11月に教皇様が来日されました。皆さんの中にも、長崎や東京で教皇ミサにあずかった人がいるでしょうし、インターネットでミサの様子を見ながらいっしょに祈りをささげた人もいたかもしれません。私も、東京で共同司式をする機会に恵まれました。教皇様の説教を聞きながら、私は司祭として何ができるのか、また——私は学校でも子どもたちに教えていますが——子どもたちのために何ができるのかと考えました。

教皇様のことは日本のテレビ・ニュースでも話題になりました。特に、長崎と広島での戦争と核兵器反対のメッセージはとても大きく取り上げ

主任司祭・ウイリアム神父
られました。たしかに、日本は戦争での被爆国として世界中に知られています。それは、いわゆる先進国だけではなくて、皆さんが知らないであろう小さな国の人々にも知られていることです。それだけに、日本での核兵器反対のメッセージは世界の人々に大きなインパクトを与える力があります。教皇様が長崎と広島で各国の指導者へあてた平和のメッセージは歴史的にもとても重いものだったと思います。

東京でのミサで教皇様は、日本は、経済的には高度に発展した社会なのに、社会的に孤立している人が少なくないことに気づかされたとおっし

やっていました。

私たちは、決して一人では生きていけません。神様はアダムの後、イヴを造られました。はじめから、一人では生きていけないものとして人をお造りになったのです。だから、私たちの人生の目標は、自分らしく生きるとか、自分が満足できるような生きることにはありません。もちろん、それも大事ですが、自分が他の誰かのために生きるにはどうしたらいいかを考えなければなりません。人生は自分のための人生ではなくて、他の人たちのための人生なのです。それは、全員が修道者になりなさいとか、遠くの国に行って奉仕しなさいとか、そういうことではないですね。それらは選択のひとつです。

神は、人間が共同体の中で生きることを望まれ

ました。私たちは、隣の誰かのために、優しく、親切に、心にプレッシャーをかけない関わりができるはずで

降誕節が始まりました。神の子キリストは、天の父のもとを離れ、人間のいる場所に——私たちの共同体のただ中に赤ちゃんとして入って来て下さいました。神様も、人間を愛しておられて、人間のところへ来て下さったのです。後数日で2019年が終わります。新年明けには、共同体で生きる意味や、共同体の中にキリストが生まれて下さった意味、誰かのために生きる意味について考えていきたいと思います。いつも目を覚ましていて、孤独な誰かを無視することなく、意識していきたいと思います。

奇跡を目の当たりに

マルタン H.U.

潜伏キリシタンの時代、バスチャンという日本人伝道師がいたのをご存知の方も多と思う。外国人宣教師ジワン神父の弟子で、ジワン神父がいなくなってからも人目を忍んで山中に隠れながら伝道を続けた末に長崎西坂で殉教した人である。250年におよぶ苦難の禁教時代に信仰が守り続けられたのもバスチャンがジワンから伝え聞いた日繰り(教会暦)があったからと伝えられている。バスチャンはまた、苦難の状況下で予言

を残している。それは「7代先に黒船で告白を聞いてくれる神父が現れ、どこでもでも大声でキリシタンの歌を歌って歩けるようになる」というようなものである。今回は2

度目の教皇様来日だが、前回のヨハネ・パウロ2世来日のビデオを見ると今でも涙がとまらない。一つにはやはりこのバスチャンの予言が頭の中をよぎるからである。予言が成就されるということは奇跡である。まさに奇跡を目の当たりにしているように思える。

当日は朝から大雨。予報では一日中雨であった。4時間前からのセキュリティーチェックをうけ入場。しかも時折稲妻が走る中、御ミサ開始まで待った。しかし、「演劇や映画でも何か奇跡が起こる前に稲光が走るのはよくあるシーンである。雨も天から降ってくるものなのだ」てなことを思いながら、現地でお会いした北白川教会の方や各地から来られた方々とお話し、分かち合いしながら待っていた。

そしていよいよ教皇様入祭!! その直後、恥ずかしながら50過ぎのオッサンがまだ小さな娘の横で号泣。しかし、絶対的に美しくすごいもの



を眼前にしたとき涙するのは人間の自然な感情である。結局、福音朗読の最後、イエスがカルワリオで言われた「はっきりいっておく、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」（ルカ 23・4

3）だけが頭に残りあとは呆然。「ふわ〜っと」余韻を残しミサは終了してしまった。便利なもので、詳細は家へ帰ってYouTubeで確認。やはり涙、涙、感謝、感謝であった。

天と地の一体感で満たされた時間

アグネス T.K.

2019年11月24日、長崎は朝から予報通り稲光と雨。予報では、午後1時から3時まで雨がもっとも強くなるとのことでした。フランシスコ教皇様による午後1時半からの御ミサに参列するため、早々と10時に会場であるビッグNスタジアムに入って席に座り、降りしきる雨の中、全身雨具を装着してその時を待っていました。ちなみに、長崎の信者や修道会関係の方は混雑を避けるため9時30分までに受付を済ませるよう、通達があったそうです。

しばらくすると、会場前方の大型スクリーンに、パパ様が沿道の歓声に送られて爆心地に到着された様子、そしてそこでの平和メッセージと式典の様子がライブ中継されました。私たちも会場で見出し出されるスクリーンを観ながら心を合わせ祈りつつ、パパ様のメッセージを聴き映像に見入っていました。雨は予報通りますます強く降りしきっていました。



ところが12時頃でしょうか。少し小雨になってきました。「あれっ？まさか…。」空を見上げると雲が切れてきて、司祭団入場の時には完全に雨

が上がったのです！「パパ様が今、司教館を出発されました」とのアナウンスの数分後、大歓声の中、信者の待つ会場にパパ様がパパモビルに乗られ入場、会場内を回られました！「ビバ！パパ！！」の歓声、赤ちゃんや幼い子どもを抱き寄せ接吻する度に湧き上がる大歓声。その時、まさかのことが起こりました。空に太陽が輝いているのです！これはまさに「奇跡」を神様が見せてくださったことを実感しました。雨の中数時間寒さに震えその時を待つ信者の忍耐、長崎の地で多くの殉教者が流した血の犠牲、250年司祭がいないうち信仰を守り続けた信者の信仰と忍耐——それらすべてに神様が報いてくださったのでしょうか。

そして2008年、この同じ会場でペテロ岐部と187人殉教者の列福式が行われたのも、同じ11月24日でした。これも神様の御摂理を感じずにはられません。

私たちはパパ様が日本で語られた様々なメッセージ、そしてパパ様の存在そのものでたくさんの恵みを戴きました。パパ様と司教団・司祭団によって捧げられた御ミサで、御聖体によって3万人の心がひとつになった信者の心！

帰国された後、少々「パパ様ロス」になっている私に、ある聖職者は「パパ様ロスは時間の無駄、いただいた恵みをどう活かすか。どう実らせていくか。それが私たちの責任」と言われました。「すべての生命を守るために」パパ様のメッセージを宝として心に刻み、私たちができることを小さな

ささやかなことでもまず一つ、まず今日から行うこと、まず一歩行動していくこと、「すべての生命を守るために」祈りと言葉と行いで信仰を証していくことが、この恵みにあずかった私たちの責任であり使命であると感じています。

御ミサの最中、鳶が祭壇の上空を飛び大きく旋回しました。まるで殉教者や多くの信者の靈魂が天から舞い降りいっしょに賛美と感謝を捧げているような、そんな天と地の一体感で心が満たされた素晴らしい時間でした。

行かなくても来てくださったパパ様

長崎は朝から冷たい雨が降り続けていました。私は車椅子の母の身体が冷えないように、幾重にも衣服を重ね、車椅子をすっぽり覆うように雨具をかぶせ、指定された障害者席で、車椅子の方々や聾啞の方々など、1人では身動きがままならない多くの人々とミサの始まるのを何時間も心の準備をして待ちました。

待ちに待ったミサが始まる少し前に雨は上がり、温かい陽射しが差し込み、パパ様が車に乗って入堂され、私たちの側に笑顔で手を振って近くまで来られました。

その時のパパ様の笑顔も素晴らしかったのですが、それよりもまして、私の周りの障害を持った人々の姿！涙ぐみ、恍惚とした笑顔！言葉で表現することのできない表情に私も胸が一杯になり思わず目から涙が溢れでました。

トマス・マルチノ Y.O.

障害を持った方々は、パパ様に会うために、遠くバチカン市国に行くことは不可能です。しかし、行かなくても、今、パパ様から来てくださったのです。

そして、パパ様は言われました。「御父が私たち皆に届けようとするあの言葉を聞きましょう。『あなたは今日わたしと一緒に樂園にいる』（ルカ 23・24）」「十字架上のキリストから与えられ、渡され、約束された愛こそが、あらゆるたぐいの憎しみ、利己心、嘲笑、言い逃れを打ち破るのです」。

長崎やその他の無数の殉教者があかししてこられた愛と平和のメッセージを、障害をもった人々とともに長崎で深く分かち合うことができました。

「あなたに、話がある」

「あなたに、話がある」と好きな人に言われて、行かないという選択肢があるでしょうか。

毎週、ごミサの第2朗読で、使徒からの手紙を読み、黙想します。その時代の人々が使徒の手紙に励まされ、心を新たにキリスト者として力強く信仰に生きたように、266代教皇フランシスコが、御年82歳でありながら、わざわざ日本に来てこの「わたし」にお話ししてくださいなのです。ポスターを目にした日から、

マリア・フランシスカ T.Y.

教皇様の来日を今か今かとそわそわして待っていました。

いよいよ教皇様の来日、午後3時半からの東京ドームでのごミサにあずかるために後樂園駅には12時過ぎに着いたのですが、改札口を降りた所からすでにたくさんの行列ができていました。「あまりにも大勢の人を見て、背の低いザアカイさんが木に登った気持ちかわかるなあ」「病気を治していただきたい一心で、

群衆を掻き分けてイエス様の衣に触れた長血を患う女の人はいへんだっただろうな」などと考えながら行列に加わって進んで歩きました。

教皇様がいらっしゃるまで2時間ほど会場で待ったのですが、不思議と長いと思いませんでした。同じ会場にいる知り合いや長崎にいる友人、残念ながら東京ドームでのミサのチケットを手に入れられなかった友人から、次々にメールやラインで情報が送られ、同じ思いであることを確信し、喜びを分かち合いました。今回、家族揃って参加できたことも大きなお恵みで、家族で過ごす時間も幸せな時間でした。

教皇様が入場されるとドーム一杯に歓声が沸き起こり、隅々まで温かい空気に包まれました。教皇様の温かい眼差し、笑顔で赤ちゃんを抱きあげ頬にキスされる姿、障害をもった方々に近づいて祝福される姿は、本当に素晴らしく、いつくしみ深い神の愛を感じました。私も一緒にハグしていただいたようで胸が熱くなりました。

教皇様と会場にいる全員の心が一つになって、感動的なごミサでした。

さて、「あなたに、話がある」と言われて、私は、何を受け取ったのでしょうか。

東京ドームからの帰り道、エマオからローマへ引き返した使徒のように熱く心が燃えていました。目に焼きついて離れない教皇様の笑顔と温かい眼差し、耳から離れない東京ドームでの歓声…。この感動を持ち続けるために教皇さ

まのメッセージを言葉にしたいのですが、なかなかうまくまとまりません。今回の教皇様の訪日のテーマは、「すべてのいのちを守るために」です。東京ドームでの説教では生産性・効率を追い求める消費社会の中であって、自分の生活のことで心をいっぱいにしないで、「いつくしみ」の心で隣人（特に弱くされた人、小さくされた人）に目を向け、関心を持ち、愛を実践するようにと言われたと思います。

私はまだ、新聞やネットで教皇様のメッセージを読み直しているところです。教皇様のメッセージはとても厳しく、実現するのが難しいことばかりのように思いました。核兵器、死刑制度、難民問題、環境問題…。社会制度そのものを変えなければ、実現不可能なこともあるでしょう。大きな宿題をいただいた感じです。

「あなたに、話がある」と一人ひとりに向き合い、お話しくださった教皇様のメッセージをしっかり受け止め、自分にできることを考え、身近なことから少しずつ実行していきたいと思えます。



pope in Japan 2019

11月25日、東京ドームで行われた
教皇ミサに参列してきました。

私 →



最寄り駅は全国から集まった
参列者でいっぱい!



シスターの群



公式グッズのメダイは
紐を通してネックレス
にしました!

16時より教皇フランシスコが入場、ミサが始まりました。



何万人もの参列者と共に旗を振って迎えます。これだけたくさんの人に愛され、祈りの中心となる教皇…。その存在の大きさを改めて感じました。

教皇さまからのメッセージについて…

「完全ではないことを受け入れる」という言葉が特に心に残りました。それは周りの人の不完全性を認め、過ちを許そうということだけではなく、自分自身も不完全であると認めることの大切さも説いているのではないかと思います。

「自分は正しい」と驕り、上から目線になるのではなく、自らの行動や想いを今一度振り返る謙虚な気持ちこそが、平和の実現のために求められているのではないかと思います。自分を見つめ直し、私にできることは何かを考えるきっかけになりました。

マリエッタ M. Y.

日曜学校より

神父様、教会の皆様、日曜学校の子どもたちをいつも温かく見守ってくださりありがとうございます。日曜学校の子どもたちは、とても元気で活発です。塾や習い事などで忙しくて、なかなか全員が揃うことはありませんが、久しぶりに来ても、いつでも普段通りに仲良く過ごしています。

ウォーカーソンでは、驚くほどたくさんの方がスポンサーになってくださったことがとても嬉しく、張り切って元気に歩けました。

毎年思うのですが、秋の爽やかな空気をいただきながら美しい賀茂川沿いを「神様のことを思って、誰かのために、イエス様といっしょに、みんなと歩く」という体験は、とても気持ちのいい疲れとともに、子どもたちの心と体を強くしてくれるように思います。リーダーたちも日ごろの運動不足を感じながらも今年も元気に歩けたことに感謝！です。



今年のバザーでは、昨年に引き続き、ゲームコーナーとたこせんの販売をしました。



いつも感心させられることは、日曜学校の子どもたちは小さい子にとっても優しいということです。侍者の様子を見ていても、年上の子どもが年下の子の世話を上手にしているほほえましい場面が多々あります。ゲームで小さい子にルールを甘くしたり、おまけをしたりしても文句はでませんし、「小さい子から順番ね」ということが当たり前に受け入れられています。キリストの価値観を自然に学んでいるようです。



恒例の Br. ベルナルドサンタさんには、本物のサンタさんではないとわかっているのにたくさんの質問をしていました。



毎年恒例のクリスマス会には、幼児さんもたくさん参加してくれました。メインは赦しの秘跡なのですが、子どもたちにとってのメインは、やはりケーキとサンタさん。大喜多さんの手作りのケーキは、いつも歓声が上がります。



とても楽しい時間を過ごしました。



クリスマス——子どもたち一人ひとりの心にイエス様をお迎えできますように。

同じ信仰を持った仲間といっしょに楽しく過ごす時間は、とても温かく安らかな時間で、信仰を育てていく上で大切な時間です。私たち日曜学校のリーダーも日々、努力を続けていきたいと思えます。

神父様、教会の皆様、これからも日曜学校の子どもたちを温かくお導きくださいますようお願いいたします。

感謝をこめて、日曜学校リーダー一同より。

健康——いのちに感謝しいのちを大切に生きて生きる

ルカ Y. Y.

主を待ち望むものは、天に登る鷺の如く
翼を張り、走れども疲れず、歩めども
倦まざるべし（イザヤ40・31）

人は高齢になるほど、神様と出会える日が近いことを喜び、心は天に向かって羽ばたく鷺のごとく、元気を出したいものです。その元気は「食はいのち」と申しますように、毎日の食事から生まれます。

日本人は世界一の長寿です。その原因は、30年をかけ世界を巡ってわかったのですが、魚と大豆を世界一多く食べているので心臓死が先進国の中でも一番少ないからです。しかし、問題があります。

魚と大豆を良く食べる人は、塩分を摂り過ぎています。食塩の過剰摂取は、血圧を上げ、脳卒中を増やし、寝たきり認知症にもなりますので、平均寿命は世界一長い日本人なのに、健康寿命がそれよりも10年短いのは、長年の食塩の摂り過ぎが多分に関係しています。

摂り過ぎて塩分を減らすには、出汁を昆布やカツオブシでとり、お酢やピリ辛味を上手に使い塩分を少なくしておいしく食べる、また、30年も前に日本人で世界一長寿になったハワイの日系人のように、ポリネシア風の蒸し料理を毎日電子レンジを活用して楽しむ、さらに塩の害を打消すカリウムの多い野菜やマグネシウムが多いミルクやヨーグルトを積極的に摂る、そのような上手な食べ方で魚や大豆をよく食べると、動脈硬化を防ぐ善玉コレステロール（HDL）が増えるので、心臓死が少なく確実に長生きできるのです。

その上「認知症も食事で防げるのでは？」という新知見が私どもの最新の研究からも得られて来ました。実は魚と大豆をよく食べている人では、

ビタミンBの仲間、葉酸が血液の中で増えていることがわかりました。葉酸は精白した小麦でパンを作ると減るので、米国では1988年から穀類に葉酸を添加するように法律で決めたのですが、すると心臓死や脳卒中が減りました。さらに高齢者が増えたにもかかわらず認知症が減って来たのはそのためではないかとの考えもあります。また、最新のオックスフォード大学の研究では、高齢者に葉酸などの入ったサプリメントと入らないサプリを2年間摂ってもらったところ、葉酸などが入ったサプリを摂っていた人では、入らないサプリを摂っていた人より、脳の萎縮の程度が明らかに抑えられたのです。

要するに、適塩で魚や大豆を食べ、塩の害を防ぐ野菜やヨーグルトなどを上手に食べると、認知症も寝たきりも防げると期待できるのです。そして世界の認知症の専門家が集まって討論して積極的に勧めたのは、①なるべく体を動かし、②学ぶ機会を多くし、③人とよく交わるという3点です。毎週教会に来る人は寿命が長いという米国の統計もありますが、日曜日に歩いて教会に来てミサにあずかり、聖書の話も聴いて学び、人々との心の交流を楽しめば、認知症も遠ざけて元気な長生きも可能と期待されます。

神様から与えられたかけがえのない生命の価値を精一杯生かされる毎日に感謝して、元気に与えられた命を生き抜いて、天に召されて神様に見まえる喜びに恵まれないものです。

健康とは、神様から与えられた“いのち”に感謝して大切に生きていくことです。健康寿命は今や「食べ方上手」になることで自分で延ばせるのです。

*Y. Y. 先生は京都大学名誉教授で、武庫川大学国際健

康開発研究所所長。カスピ海ヨーグルトを日本に持ち帰るなどで有名です。9月の敬老会の席で食事と健康

について貴重なお話をなされたので、原稿執筆をお願いしました。(広報部)

ネガとポジ

前号に書いたように上田閑照先生が他界した後、夫の父が亡くなり、その後海外の友人のお父さんの帰天の知らせがあった。今年は亡くなった人が多かった——と振り返る12月にも、ある先生の訃報が届いた。3月に91歳で亡くなっていたらしい。恩師にもいろいろあろうが、その先生は特別だった。そもそも中学高校の6年は一貫教育だったから同窓生は互いになじみが深いのだが、その先生からは6年間英語を習った上に、6年間3クラスのうち1クラスの担任は必ずその先生だった。おまけに、母校は英語教育を重視していて、1週間の英語の授業時数は6時間だった。

仏教校なのに、なぜそんなに英語教育に熱心だったのか。その理由を私は後々に知った。創立者の女性は浄土真宗の寺の娘で、明治時代創立された基督教のミッションスクールに対抗して、仏教の女学校を始めたそうだ。彼女自身は同志社女学校で学んだことから、礼拝を真似た仏参の時間、オルガンの伴奏による歌、英語教育などを自ら創立した女学校に取り入れたと言う。在学当時の私はすでに基督教に興味をもってはいたものの、仏教校という環境もあってあきらめの境地で、母校創立のそんな経緯は思いもよらなかった。高校卒業後20余年を経てその経緯を知った時は、ネガがポジになった気分だった。私の母校に限らず、近代日本の仏教校は基督教ミッションスクールに影響されて創立されたようだ。

みっちり英語教育を受けたせいも、同窓生には国際結婚をした人が何人もいる。良妻賢母の育成を旨とする学校だったが、その英語教育によって国際的な良妻賢母をも育てたと言えるのだろう

マリア・ヨハンナ M.M.

か。私の場合、夫は日本人だし、良妻(家事は手抜き)にも母にもならず、英語も忘れてしまったが、大学でドイツ語などを学んだ際に中高での英語学習が基礎になったことはまちがいない。そして、そのドイツ語によってドイツの思想を研究しドイツに研究滞在したのも母校と恩師のおかげと言っている。ただ、基督教の思想を研究した末に洗礼まで受けたというのは、創立者の想定外だろう。創立者は基督教の文化を取り入れることで仏教を近代化し再興しようという思いだったろうが、取り入れられたものが長い年月を経て基督教への一つの通路になったのだ。

恩師のことで覚えていることは少ないが、とにかく熱心な先生だった。ご主人と二人、犬を飼っているだけで子どもがいない方だったから、そのために熱心なのだと当時の私たちは何となく思っていた。でも、それだけではなかったかもしれない。ある時、ヘレン・ケラーのテキストを教材に用い、感動の思いを熱く語ってくださったことがあった。ひょっとすると、サリバン先生は彼女の理想の教師像だったのだろうか。そのサリバン先生は基督教信仰に生きた人だった。私の恩師は生涯仏教校で教えた方だったが、ひょっとしたら、今頃、サリバン先生が信じた方、愛そのものである神に会って、感動しておられるかもしれない。

日本は仏教の国だと言う人たちがいる。確かに、日本では基督教信者は少ない。でも、仮に日本が仏教の国であるとしても、17世紀のキリシタンからの改宗強制や檀家制度など政治的な要因に由来するところが大きいし、明治以降の仏教

の近代化はキリスト教の影響なしには考えられない。たとえ意識されていなくても、キリスト教は日本に大きな影響を及ぼしている。ある神父様はよく冗談で「賢い人はいずれカトリックになる」と言われるが、世間の声に振り回されず時間をかけて物事を見るなら、ネガフィルムを現像した時のように、真実を見ることができないかもしれない。

編集後記

ご降誕祭おめでとうございます！フランシスコ教皇様来日後にお届けする今回の Viator では、ウィリアム神父様をはじめとして、教皇様の御ミサにあずかった方々の感想が多く掲載されています。大島さんの文章からは障害者の方々への教皇様の優しい眼差しが伝わります。行田さんの報告にも教皇様が赤ちゃんの頬にキスされる姿が書かれています。私も東京での教皇様の御ミサにあずかる機会が与えられましたが、教皇様はご入場の際に、想像を超えるほどたくさんの方が集まるなか、障害者の方々の座るところでパパモビルから降りてわざわざ足を運んだり、また次々と差し出される赤ちゃんに優しく接したりして、丁寧に対応されたのは印象に残りました。教皇様ご自身もしばしばお疲れの様子でしたが、弱い立場の人にしっかりと目を向けるのを怠らないご姿勢でした。

ご降誕祭は、イエス様がか弱い赤ちゃんとしてこの世にお生まれになったことを改めて思い返す日です。倉岡さんの文章にあったように、これから教皇様のメッセージをどう活かすかということ念頭におきながら、飼いやおけに寝かされた赤ちゃんとしてお生まれになったイエス様の御降誕の重大さに改めて思いを馳せることができると思います。

(アグネス B. S.)

こんにちは

 by. あげう

